

平成30年9月5日

食農学類（2019年4月開設）専任教員についてのご紹介 および窪田陽介准教授 着任のお知らせ

2019年4月に開設する農学群食農学類の専任教員38名（食品科学コース10名、農業生産学コース10名、生産環境学コース10名、農業経営学コース8名）が決定しましたので、以下および別紙のとおりご報告いたします。

また、平成30年8月1日付で窪田陽介准教授を農学系教育研究組織設置準備室に採用しましたので、併せてお知らせいたします。

○2019年4月就任予定者.....27名

食品科学コース 4名

平 修、熊谷武久、升本早枝子、西村順子

農業生産学コース 7名

高橋秀和、新田洋司、渡邊芳倫、深山陽子、高田大輔、大瀬健嗣、石川尚人

生産環境学コース 6名

金子信博、望月翔太、石井秀樹、申 文浩、牧 雅康、窪田陽介

農業経営学コース 5名

荒井 聡、則藤孝志、小山良太、生源寺眞一、林 薫平

その他、現時点で非公開の者5名

○2020年4月就任予定者.....11名

食品科学コース 2名

松田 幹、尾形 慎

農業生産学コース 2名

岡野夕香里、二瓶直登

生産環境学コース 3名

市川貴大、藤野正也、原田茂樹

農業経営学コース 0名

その他、現時点で非公開の者4名

なお、各教員の詳細は、別途資料「エフ・チャレンジ」vol.4に掲載しています。

○窪田陽介准教授についてのご紹介

・窪田 陽介（くぼた ようすけ）准教授（元神戸大学先端融合研究環 特命助教）

【専門分野】

農業工学、生産機械工学

【研究活動の概要・今後の抱負】

稲作、畑作、園芸、畜産など幅広いフィールドで農業におけるシステム開発や機械・装置開発に取り組んできました。システム開発では、画像解析や近赤外線分光分析などの光センシング技術を用いて、水稻における被害粒や大根の内部障害検出、生乳の鮮度評価、乳牛における脂肪肝診断などの開発を行ってきました。また、機械・装置の開発では、水稻種子消毒装置やハウス内防除ロボットなどの開発に携わっていました。いずれの研究も農作業の効率、高精度化や農産物の高品質化を目的としており、日本農業が抱える農業従事者の高齢化、自給率の低下などの問題解決に繋がるものとなっています。

福島大学においては、先端技術の導入により「超省力」「快適作業」「精密・高品質」を実現する「スマート農業」に繋がる研究を行っていきたいと考えています。福島県は、水稻、野菜、果樹と多種多品目の農産物を生産する農業県といっても過言ではありません。その地を研究フィールドとして、農産物栽培における自動化・ロボット化、生産環境のセンシングによる精密農業、流通システムの構築まで様々な場面に即した技術開発を行い、福島県内の農家、企業などに貢献したいと考えています。

平成31年に新設される農学群食農学類は、福島県の皆様から高い期待を受けていると感じています。この期待に応えるために、研究および教育を通して、将来、福島県で活躍できる卒業生を送り出せるよう、食農学類の設置準備に邁進していく所存です。

（お問い合わせ先）

農学系教育研究組織設置準備事務局

電 話：024-548-8212

メール：nogaku-j@adb.fukushima-u.ac.jp